

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	アジア哲学系プログラム（シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム・応用哲学分析アジア哲学プログラム@台湾・アジア哲学研究等）
<b>代表者名</b>	出口康夫
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>以下では一体的に運営された哲学系諸プログラムの概要を一括して記す。</p> <p>アジア哲学研究 (I～III)として Takashi Yagisawa (CSUN), Yumiko Inukai (UMB), Mark Siderits (Seoul) の諸講師による哲学系の英語講義が実施された。</p> <p>これらの講義に参加し優秀な成績を修めた者を中心として5名がシンガポール国立大学に12日間、2名が台湾諸大学（国立台湾大学・国立政治大学・東呉大学）に10日間、それぞれ派遣された。</p> <p>またシンガポール国立大学の学生2名、国立政治大学（台湾）の学生3名が、それぞれ10日間程度、京大に招かれ、Jay Garfield 教授（シンガポール国立大学）のセミナーや、三回目となる京都大学・シンガポール国立大学・国立政治大学の三大学の大学院生会議に参加し発表を行なった。なおこの三大学の大学院生会議では、京都大学やシンガポール国立大学、さらにはカリフォルニア大学バークレー校の教員も発表を行なった。</p> <p>さらに前年度に引き続いて、KICASU の運用と教科書作成の作業も進められた。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>KUASU における哲学系事業も四年目に入り、KUASU を一つのハブとする「分析アジア哲学」の教育・研究ネットワークが、より一層の広がりを見せている</p> <p>本年度の英語講義や派遣事業への参加者の中には、去年度までに同様の事業に参加した経験者に加え、学部三回生等、今年度、新たに加わった者も含まれる。またシンガポール国立大学を始めとして、アジア諸大学の学生・院生の中にも、前年度までに加えて、本年度も引き続き、この事業に参加する者も複数存在している。本事業は、京大のみならずアジアの連携大学の間で、確実に定着しつつあるのである。</p> <p>その結果、アジア諸国の学生・院生の間で一つのコミュニティが生じつつある。例えば、2015 年 5 月に韓国の延世大学 Underwood Collage で開催された国際学会においては、いまや KUASU 事業の「常連」となりつつある京大院生2名に加え、KUASU 事業の「OB」とも言えるソウル大学院生や国立政治大学の院生が参集し、さらに第6回次世代ワークショップ（2014）に参加した欧州の大学院生も加わり、さながら KUASU 哲学系事業の「同窓会」の様相を呈したのである。</p> <p>また本事業は、京大の学生・院生を、本格的な海外留学へと後押しする役割も引き続き果たしている。具体的には、2016 年度には、本事業参加経験者のうち3名が海外で長期留学を続けているのである。</p> <p>さらに本事業は、京大の通常の教育・研究活動にもプラスの効果を、これまた引き続き与えている。2015 年度文学部哲学専修に提出された修士論文のうち1本は、この事業における英語講義を受講することが切っ掛けとなって執筆されたものである。</p> <p>なお上記の三大学大学院生会議では、京大の大学院生4名が発表を行なった。4名とも前年度から引き続き本事業に参加し、英語の研究発表の経験を積んできた学生たちである。彼ら彼女らの発表、その内容はもとより、堂々たるプレゼン振りに関しても、海外の大学教員から高い評価を得ることができた。このように、KUASU の哲学系事業は、京大の大学院生の英語発信能力の底上げにも大いに貢献しているのである。</p>